

防災気象情報の伝え方の改善

～ 「過去事例を引用した警戒の呼びかけ」 ～

「自らの命は自らが守る」 社会を支える取組

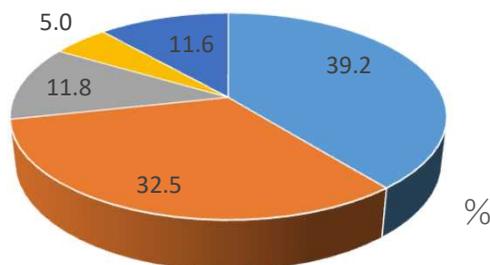
大阪管区気象台

過去事例を引用する目的

今出水期から

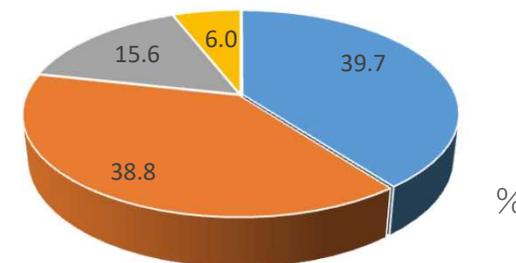
- 過去に大きな災害をもたらした事例を引き合いに出さないといけないほど、気象台は危機感を持っていることを伝える。
- 過去事例と同様な雨が降ること等により、甚大な被害が発生するおそれがあることを伝える。

Q. 気象庁が用いた「狩野川台風に匹敵する大雨」という表現について、あなたはどのように感じましたか？



- 危機感が高まった
- やや危機感が高まった
- あまり危機感が高まらなかった
- 危機感が高まらなかった
- そのような表現をしたことを知らなかった

Q. 今後、気象庁が実施する記者会見において、「〇〇台風」に匹敵する記録的な大雨という表現を用いられた場合、あなたはどのように感じると思いますか？



- 危機感が高まると思う
- やや危機感が高まると思う
- あまり危機感が高まらないと思う
- 危機感が高まらないと思う

(令和元年台風第19号等に関する住民アンケート調査) : サンプル数 2100

過去事例の引用は気象台が持つ危機感を伝える手段として一定の効果があることから、顕著な被害が想定されるときには必要に応じて臨機に運用。

一方で、「狩野川台風」を引用して記録的な大雨への警戒を呼びかけたが、強い危機感が伝わっていない地域もあった。

- ・ 狩野川台風を知らなかった・・・
- ・ そもそも狩野川がどこにあるのか知らなかった・・・
- ・ 狩野川は静岡県伊豆にあり、自分が住んでいる地域とは離れているから・・・
- ・ 狩野川台風では自分が住んでいる地域では被害がなかったから・・・

(令和元年 台風第19号等に関する住民アンケート調査：サンプル数 2100)

解説すること

- (雨量分布を示すときは) 予想されている雨量分布に加え、どこで尋常ではない雨により災害発生の危険度が高まるかを併せて解説。
- 降雨によって起こり得る洪水や土砂災害等の現象を具体的に説明。
- 当時の被害の状況を示すときは、引用した災害とまったく同じ状況にはならないことを併せて解説。
- 引用する事例がいかに関与したか伝えるために、該当する内容があれば、その災害が社会に与えた影響も併せて解説。

解説にあたっての留意点

- 当時の雨量分布を単独で示すと、当時雨の多かった場所でのみ災害が発生するものと伝わってしまうおそれがある。
- 当時の被害が発生した地域を事細かに解説すると、特定の地域でのみ災害が発生するものと伝わってしまうおそれがある。

- **H30年台風第21号：大阪、御坊、神戸 過去最高潮位**
 - ・ 台風は、9月4日12時頃に非常に強い勢力で徳島県南部に上陸し、4日14時頃に兵庫県神戸市付近に再上陸。
 - ・ 近畿地方では猛烈な風を観測し、観測史上第1位となったところがあった。
 - ・ 最高潮位が大阪府大阪市では329cm、兵庫県神戸市では233cmなど、過去の最高潮位を超える値を観測。

- **H30年7月豪雨：近畿では京都、兵庫で特別警報**
 - ・ 前線や台風第7号の影響により、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨。
 - ・ 6月28日から7月8日までの総降水量が、7月の月降水量平年値の2～4倍となる大雨。
 - ・ 岐阜、京都、兵庫、岡山、鳥取、広島、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎の1府10県に特別警報発表。

- **H25年台風第18号：京都、滋賀で特別警報：特別警報運用後初**
 - ・ 台風は、潮岬の南海上を通過して、16日8時前に暴風域を伴って愛知県豊橋市付近に上陸。
 - ・ 京都府、滋賀県、福井県では、特別警報発表

- **H23年台風第12号：紀伊半島を中心に記録的な大雨：特別警報創設の契機**
 - ・ 台風は、発達しながらゆっくりとした速さで北上。9月2日に四国地方に接近、3日10時頃に高知県東部に上陸、18時過ぎに岡山県南部に再上陸。
 - ・ 大型で動きが遅かったため、山沿いを中心に広い範囲で記録的な大雨。
 - ・ 8月30日17時から9月5日24時までの総降水量は、紀伊半島を中心に広い範囲で1000ミリを超え、紀伊半島の一部の地域では解析雨量1で2000ミリを超えた。

- **H16年台風第23号：円山川、出石川、由良川が氾濫**
 - ・ 台風は、大型の強い勢力で高知県土佐清水市付近に上陸した後、15時過ぎ、高知県室戸市付近に再上陸。
 - ・ 近畿北部や東海、甲信地方で300mmを超え、広い範囲で大雨。
 - ・ 兵庫県豊岡市や出石町を流れる円山川、出石川が氾濫、京都府福知山市から舞鶴市を流れる由良川が氾濫して浸水害が発生。

過去事例引用例（平成30年台風第21号引用）

地方気象情報（例）

令和〇年 台風第●号に関する近畿地方気象情報 第△号 令和〇年9月〇日06時00分 大阪管区気象台発表

（見出し）

非常に強い台風第●号が、〇日昼前から夕方にかけて近畿地方に最も接近する見込みで、**平成30年台風第21号に匹敵する記録的な暴風や高潮となるおそれがありますので嚴重な警戒が必要です。**また、高波や土砂災害に嚴重に警戒し、浸水害、河川の増水や氾濫にも警戒してください。

記者会見資料（例）

（参考）平成30年台風第21号（2018年）9月3日～9月5日

平成30年台風第21号に匹敵する記録的な暴風や高潮となるおそれがあります。近畿中部や南部を中心に、暴風や高潮に嚴重に警戒。

- 大阪府田尻町関空島では最大風速46.5m/s、最大瞬間風速58.1m/sとなるなど、猛烈な風を観測。
- 大阪府大阪市では329cm、兵庫県神戸市では233cmなど、過去の最高潮位を観測。
- 暴風や高潮の影響で、浸水をはじめとして、航空機や船舶の欠航、鉄道の運休等の交通障害、断水や停電等ライフラインへの被害が発生。
※当時の被害の状況とまったく同じ状況にはならないことに留意。

【被害の状況（平成30年版 消防白書）】

・人的被害

死者14人（愛知県2人、三重県1人、滋賀県2人、大阪府8人、和歌山県1人）、重傷者46人、軽傷者897人及び程度不明者11人

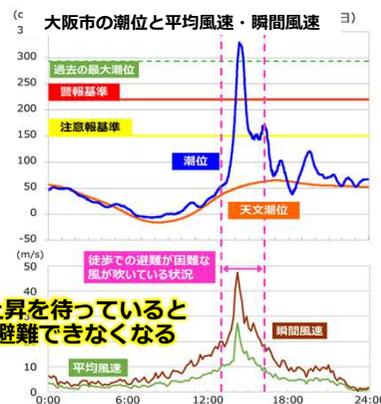
・住家被害

全壊26棟、半壊189棟、一部破損50,083棟、床上浸水66棟、床下浸水505棟

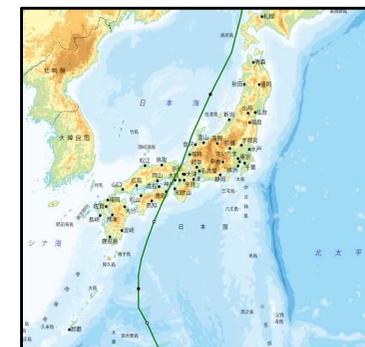
【当時の風・潮位】 ※極値更新

府県名	観測所	最大風速
大阪府	関西空港	南南西 46.5m/s ※
和歌山県	友ヶ島	南 42.9m/s ※
和歌山県	和歌山市	南南西 39.7m/s ※
府県名	観測所	最大瞬間風速
大阪府	関西空港	南南西 58.1m/s ※
和歌山県	和歌山市	南南西 57.4m/s ※
和歌山県	友ヶ島	南 51.8m/s

府県名	観測所	最大潮位偏差	最高潮位
大阪府	大阪	277cm	329cm ※
和歌山県	御坊	260cm	316cm ※
兵庫県	神戸	181cm	233cm ※



台風経路図



台風第21号による高潮被害（神戸市より提供）



提供：国土交通省近畿地方整備局

災害時気象報告 2019年第1号 大阪管区気象台

気象庁ホームページ 災害をもたらした気象事例

(<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/2018/20180911/20180911.html>)

- 報道のみなさまからみて、どのような事例を引用すれば、より効果的と思われるか？

例えば、

- ・ 気象庁が名称を定めた事例を引用すべき
 - ・ 記憶の観点から、より最近の事例を引用すべき
 - ・ 最近の事例であっても、危機感を伝えるためには、当該地域で起きた災害事例でないと効果がない
 - ・ 引用する事例は、予想される量的予報や想定される災害から判断することになりますが、特定の事例に絞り、度々同じ事例を引用すると、危機感が伝わらなくなる
-
- 気象台が過去事例を引用するようなとき、どのような解説（ワード）、図があると、より危機感を感じますか？

ご意見をお願いします。